

地域活性化伝道師プロフィール		分野	◎	○	◎	○
		地域産業・イノベーション・農商工連携	◎	○	◎	○
		地域医療・福祉・介護・教育	◎	○	◎	○
		地域コミュニティ・集落再生	◎	○	◎	○
		地域交通・情報通信	◎	○	◎	○
ふりがな		たなか たけひろ				
氏名		田中 丈裕				
所属	名称	特定非営利活動法人 里海づくり研究会議				
	役職	理事・事務局長				
連絡	住所	(公開)	〒704-8194 岡山市東区金岡東町三丁目2番2-4号		(自宅)	
	連絡先	(公開)	E-Mail satoumiken[アットマーク]gmail.com			
	連絡先	(公開)	TEL 080-6348-7752	FAX 086-473-5574		
	連絡方法	電話またはE-Mail				
略歴		1953年大阪市生まれ。高知大学大学院農学研究科栽培漁業学専攻修士課程を修了。1979年に岡山県に入庁し、水産技師として、水産行政全般・漁場環境整備・栽培漁業及び資源管理・複合型海洋牧場・アマモ場再生・カキ殻など二枚貝の貝殻を利用した沿岸環境修復・リ色落ち対策に関する技術開発などを企画担当。2008～2011年に水産課長、岡山県を退職後、海洋建設㈱水産環境研究所長を務めた後、2012年1月に「里海」の提唱者である九州大学名誉教授の柳哲雄氏、広島大学名誉教授の松田治氏らとともにNPO法人里海づくり研究会議を設立、現在に至る。日本水産学会水産環境保全委員会委員(2009～現在)、沿岸環境関連学会連絡協議会委員(2013～現在)、水産庁技術戦略策定委員会委員(1999)、水産庁水産系副産物(貝殻)有効活用のためのガイドライン策定委員会委員(2006)、水産庁水産環境整備技術検討会委員(2010～2011)、(公社)全国豊かな海づくり推進協会企画委員会委員(2014～2015)、総合海洋政策本部参与会議「総合的な沿岸域の環境管理の在り方PT」有識者委員(2016)等を歴任。(社)マリフォーラム21功労者表彰(1999)、国土交通省港湾局長表彰(2013:みなどまちづくりマイスター認定)、岡山県知事表彰(岡山県農林水産部水産課としてアマモ場再生の功績:2008)、環境大臣表彰(特定非営利活動法人里海づくり研究会議として沿岸環境保全の功績:2013)				
著作・論文等		【論文】アマモ場再生に向けての技術開発の現状と課題。関西水圏環境研究機構第11回シンポジウム、25-47(1998)／複合型海洋牧場における放流魚の定着状況と魚類相。水産工学、35(3)、303-309(1998)／海の牧場づくりを目指して～複合型海洋牧場造成技術の開発～。アクアネット1999年6月号、36-42(1999)／水産分野における環境修復の考え方と具体的な取り組み事例。瀬戸内海、No47、47-52(2006)／瀬戸内海水島港での浚渫工事に伴う懸濁粒子(SS)発生量の把握に関する調査。海洋開発論文集、第25巻、1311-1316(2009)／Introducing a Successful Japanese Marine Ranching Project : Shiraishi-jima Island's Marine Ranching Project in Okayama, The East Asian Seas Congress2009(2009)／水産分野における海洋観測の重要性について。日本誌、76(3)、443-445(2010)／生態系に着目した水産環境整備のあり方。アクアネット2011年3月号、25-29(2011)／日本水産学会水産環境保全委員会、リサイクル材による海域環境修復の最前線。日本誌、77(6)、1110-1113(2011)／Reviving the Seto Inland Sea, Japan: Applying the Principles of Satoumi for Marine Ranching Project in Okayama. 15th Colloque franco-japonais of Oceanography(2013)／アマモとカキの里海「ひなせ軒漁師町(岡山県日生)」。日本誌、80(1)、72-75(2014)／沿岸環境関連学会連絡協議会第29回ジョイントシンポジウム、沿岸環境修復技術としての貝殻利用の最前線～物質循環の促進向上に向けて～。日本誌、80(4)、632-636(2014)／沿岸環境のこれからを考えるー環境保全と漁場整備ー。漁港漁場漁村研究、vol.3、8-11(2014)／岡山県日生町におけるアマモ場再生と里海づくり。水と廃水58(4)、308-314(2016)ほか 【著作(共著)】第4節カキ殻による漁場環境の改善【1】カキ殻による餌料培養、沿岸の環境圏、1226-1243(1998)／Reviving the Seto Inland Sea, Japan: Applying the Principles of Satoumi for Marine Ranching Project in Okayama, H.-J. Ceccaldi et al.(eds.), Marine Productivity, Perturbation and Resilience of Socio-ecosystems, DOI 10.1007/9783-319-13878-7_31,(c)Springer International Publishing Switzerland 2015／沿岸環境修復技術としての貝殻利用の最前線Ⅰー物質循環の促進向上に向けてー, pp. 47-54, 月刊海洋, Vol. 47, No. 2(2015)／沿岸環境修復技術としての貝殻利用の最前線Ⅱー物質循環の促進向上に向けてー, pp. 115-125, 月刊海洋, Vol. 47, No. 3(2015)／Local and regional experiences with assessing and fostering ocean health. Marine Policy, Volume71, September 2016, Pages 54-59. ほか				
取組概要		・アマモ場は、「海のゆりかご」と呼ばれ、海洋生態系や沿岸環境の保全に不可欠であるだけでなく、ブルーカーボンとして温室効果ガスCO2の吸着固定にも重要な役割を果たしている。「アマモ場再生活動発祥の地」と言われる備前市日生町において、35年以上にわたって漁師達と共にアマモ場再生活動に取り組み、ほとんど消滅したアマモ場を250ha以上にまで回復させた。これを契機として周辺にもこの取り組みが広がり、2007年岡山市、2013年瀬戸内市が着手し、1980年代に県下で約550haまで衰退したアマモ場は2015年には約1,845haまで回復、2015年には笠岡市、寄島町、玉野市も参画して活動範囲はほぼ県下全域に拡大、さらなるアマモ場の回復に注力している。 ・アマモ場再生活動など里海づくりをベースとして、2013年からは小中高校の子ども達、一般市民、農林業者など世代や立場・地域を越えた活動を展開するとともに、「みなど学習会」・「みなど親子学習会」などを企画開催し、海の生き物と触れ合いながら、港や海についての学びの場を提供するなど、学校教育・社会教育としての海洋教育の推進に取り組んでいる。 ・森里川海の連環を軸に据えながら、備前市・笠岡市など「里海」と真庭市など「里山」を結び、さらには人と物の流れで里海・里山・「まち」を繋ぐことにより、真の循環型地域社会の構築を目指している。 ・シンポジウムや交流会集、ワークショップなどを企画開催するとともに、国内外の各地において講演や学会活動等を通じ、里海概念の普及と里海づくりに奔走している。				
メッセージ		「里海」とは、「人手が加わることで生物多様性と生産性が高くなった沿岸海域」との定義で、1998年に九州大学の柳哲雄教授によって提唱された言葉と概念で、2006年以降、「21世紀環境立国戦略」、「第3次生物多様性国家戦略」、「海洋基本計画」等に盛り込まれています。「瀬戸内海生まれ日本発」の「里海」は、2006年の世界閉鎖性海域環境保全会議(EMEC57)で「Sato-Umi」として紹介されて以来、国際的にも注目を浴び、Satoumi Workshopが盛んに開催されるようになり、アメリカ合衆国やフランス、インドネシア、アフリカ諸国など世界各地に広がっています。海が健全であり続けるためには、森・里・川・海のそれぞれにおいて、人が生きていくための営みを保ちながら、人々が暮らしを通じて適切に潤わり、水を介した森里川海の繋がりを維持することが大切です。私達は、地球生態系のなかで生かされ、地球生態系は大きな物質循環の中で維持されています。水を介した森里川海の流れの終結点は海ですが、漁業という営みを通じて人が関わることで海から陸への回帰循環が生み出されます。人は、自然の営みに頼らなければ生きていくことはできません。自然と人の共生を目指して、ネットワークのさらなる拡大と里海・里山・「まち」が繋がる真の循環型社会の実現を願っています。				
関連ホームページ		http://satoumiken.web.fc2.com/		活動エリア	全国(主として岡山県)	

※ 公開できる情報のみ掲載しています。  
 ※ 依頼・相談等に伴う謝礼等条件につきましては、双方協議の上、決定してください。  
 ※ メール送信は、「アットマーク」を@に置き換えて行ってください。